

2019年3月期 第2四半期 決算説明会資料

2018年10月31日@ステーションコンファレンス東京
7741.T [ADR: HOCPY US] HOYA株式会社

[メモ付ver.]
説明会におけるコメントや質疑応答を参考情報として記載しております。説明内容をすべて書き起こしたものではありませんのでご了承ください。

1. 決算概要[代表執行役CFO 廣岡 亮]

2. 情報・通信事業概況

3. ライフケア事業概況

4. 総括

5. 質疑応答

業績概況

(億円)	Q2 FY17	Q2 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益	1,358	1,420	+62	+5%
税引前四半期利益	329	384	+55	+17%
四半期利益	268	312	+45	+17%
cf. 通常の営業活動 からの利益	335	382	+47	+14%

売上収益/税引前利益/四半期利益の記録を更新

為替換算の影響

(億円)	前期レート 換算(A)	当期レート 換算(B)	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益	1,427	1,420	-7	+69	+5%
税引前四半期利益	380	384	+4	+52	+16%
四半期利益	309	312	+4	+41	+15%

主要通貨	(A)Q2 FY17 レート	(B)Q2 FY18 レート	変動率
US\$	¥111.17	¥111.88	-0.6%(円安)
EURO	¥131.28	¥130.54	+0.6%(円高)
BAHT	¥3.34	¥3.40	-1.8%(円安)

特殊要因について

包括利益計算書

(億円)	Q2 FY17	Q2 FY18	YoY	
収益合計	1,364	1,438	+74	1
費用合計	1,036	1,054	+18	2
税引前四半期利益	329	384	+55	

- 1 子会社の売却により「その他の収益」が8億円増加したこと等により、収益合計は売上収益以上に伸張した。
- 2 前年度ほぼ発生していなかった為替差損益が、今期は為替差損が 8 億円発生、費用全体では18億円の増加となった。

ライフケア事業 業績概況				
(億円)	Q2 FY17	Q2 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	881	919	+38	+4%
税引前四半期利益	145	170	+25	+17%
cf.通常の営業活動 からの利益	154	187	+33	+21%
cf. 同利益率	17.5%	20.3%	+2.8pt	
*外部売上の数値				
© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved				
6				

以前より掲げていたライフケア事業での利益率20%を達成することができた。
ただ、売上成長については、成長投資が当初予定より遅れている面もあり、充分とは言えない状況。

ライフケア事業 業績概況(為替影響除き)

Q2 FY18業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	927	919	-8	+47	+5%
税引前四半期利益	167	170	+3	+22	+15%
cf.通常の営業活動 からの利益	186	187	+1	+32	+21%

*外部売上の数値

情報・通信事業 業績概況

(億円)	Q2 FY17	Q2 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	468	490	+22	+5%
税引前四半期利益	194	217	+22	+12%
cf.通常の営業活動 からの利益	192	209	+17	+9%
cf. 同利益率	41.0%	42.7%	+1.7pt	

*外部売上の数値

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

8

情報・通信事業 業績概況(為替影響除き)

Q2 FY18業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	488	490	+1	+20	+4%
税引前四半期利益	216	217	+1	+22	+11%
cf.通常の営業活動 からの利益	209	209	+1	+16	+9%

*外部売上の数値

サブセグメント別業績

ヘルスケア関連製品 売上収益
メガネレンズ / コンタクトレンズ

(億円)	Q2 FY17	Q2 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	671	706	+35	+5%

為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	714	706	+43	+6%

*外部売上の数値

サブセグメント別業績

メディカル関連
内視鏡 / 眼内レンズ

(億円)	Q2 FY17	Q2 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	210	213	+3	+1%

為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	213	213	+4	+2%

*外部売上の数値

サブセグメント別業績

エレクトロニクス関連 マスク&ブランクス / HDD基板				
(億円)	Q2 FY17	Q2 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	352	381	+29	+8%

為替換算影響除き				
(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	379	381	+27	+8%

*外部売上の数値

サブセグメント別業績

映像関連製品 カメラレンズほか				
(億円)	Q2 FY17	Q2 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	116	109	-7	-6%

為替換算影響除き				
(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	109	109	-7	-6%

*外部売上の数値

貸借対照表

(億円)	Q1 FY18	Q2 FY18	QoQ
非流動資産	2,305	2,378	+74
流動資産	4,317	4,794	+477
資本	5,473	5,918	+445
非流動負債	158	160	+2
流動負債	990	1,094	+103
合計	6,621	7,172	+551

1 現金及び現金同等物 +261億円
その他の短期金融資産 +116億円

キャッシュフロー計算書

(億円)	Q2 FY17	Q2 FY18	YoY
営業活動によるCF	397	401	+4
投資活動によるCF	-609	-196	+413 1
財務活動によるCF	-539	3	+542 2
現金及び現金同等物 期末残高	2,316	2,523	+207

- 1 大型買収案件があった前期と比較し、投資活動によるキャッシュアウトが大幅に減少
- 2 社債の償還（350億円）があった前期と比較し、財務活動によるキャッシュアウトが大幅に減少

1. 決算概要

2. 情報・通信事業概況 [執行役COO/CTO 池田 英一郎]

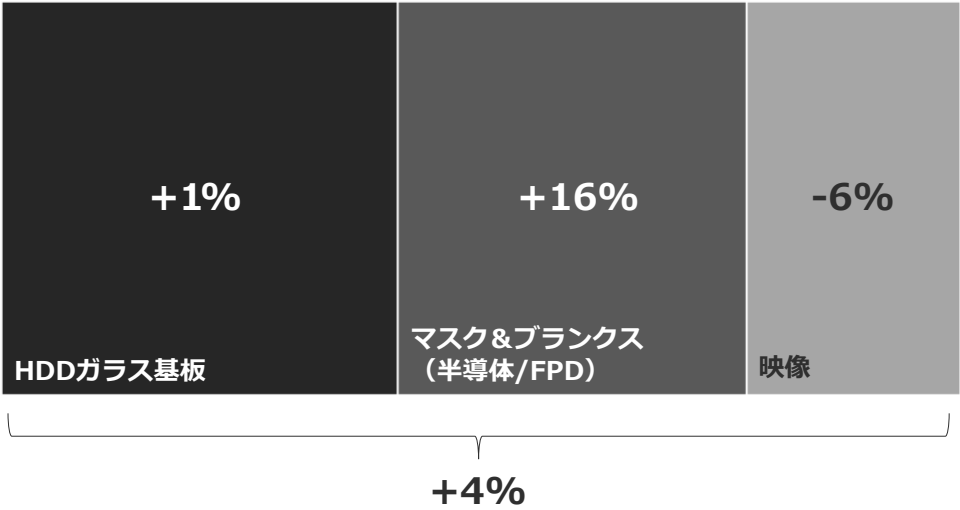
3. ライフケア事業概況

4. 総括

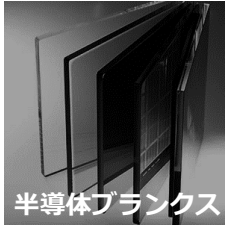
5. 質疑応答

情報・通信事業概況

売上増減率（為替影響除き）



製品別概況



半導体ブランク

足元

EUVが前期比倍増、売上比率が21%に
DUV(Optical)も先端品がけん引し、好調

今後

EUVを中心に継続拡大
2020年の量産ライン稼働に向けた準備を開始



FPD/LSI マスク

足元

G6を中心とした旺盛なスマホ向けマスクの開
発需要を取り込み増収。高精細品も順調

今後

高い水準が継続しているG8以下のマスク需
要を着実に取り込んでいく

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

18

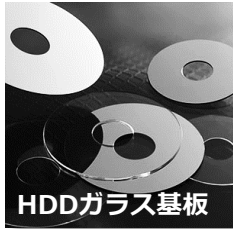
【半導体ブランク】

クラス別では、ローエンドがやや減少した一方で、EUVを含む先端品が大きく伸びた。

半導体市場に対して悲観的な見方が広がっているようだが、製造部材であり開発用途が多いブランクスについては、最終製品の市場の影響がそれほど大きくなく、比較的安定している。

また、EUVに対する半導体メーカーの強い投資スタンスは変わっていない。EUV露光機メーカーによる出荷台数も順調に増加しており、市場において稼働しているEUV露光機の数が増えてくることから、成長機会は大きい。

製品別概況



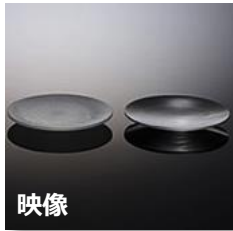
HDDガラス基板

足元

SSD侵食等により2.5"が減収も、データセンター用3.5"が拡大(3.5"比率18%)し、全体成長

今後

引き続き3.5"の売上拡大を見込む。新工場の2020年稼働開始を目指す



映像

足元

コンデジの縮小を補っていた監視カメラレンズが中国での投資停滞や貿易摩擦等により減収

今後

新規用途におけるレンズ販売を引き続き図る

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

19

【HDDガラス基板】

2.5"が10数%マイナスであったが、3.5"が補って余りある成長。

データセンターにおいて当社のガラス基板を搭載したHDDが既に数ヶ月稼働しているが、故障率などの問題もなく実績が出来てきており、顧客拡大のハードルも低くなってきている。

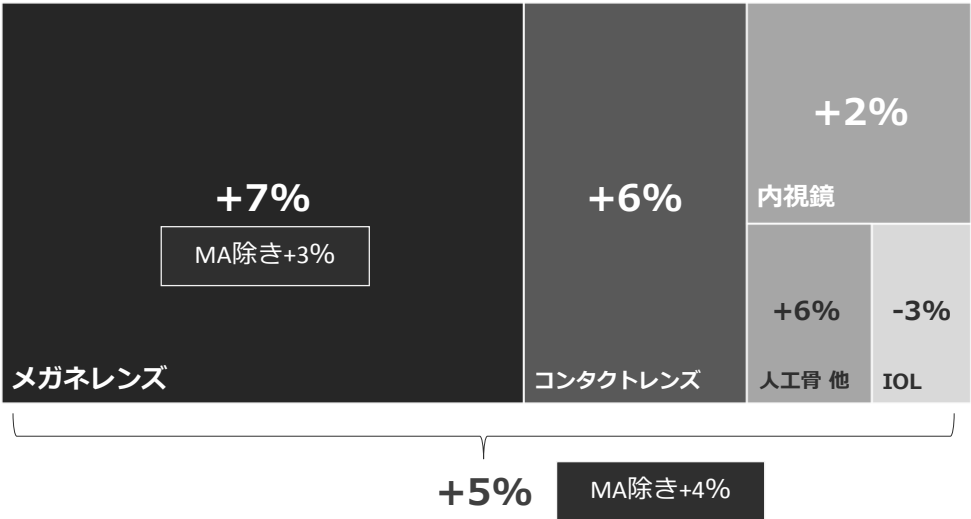
【映像】

車載カメラ用や3Dスキャナ用のレンズは前期比でプラスとなっており、今後は監視カメラだけに頼らずに新規用途を成長させていくことが必要。

1. 決算概要
2. 情報・通信事業概況
- 3. ライフケア事業概況 [代表執行役CEO 鈴木 洋]**
4. 総括
5. 質疑応答

ライフケア事業概況

売上増減率（為替影響除き）



製品別概況



足元

Q1での大型契約効果等により米州が2桁成長。
PMIが概ね完了、収益性がさらに向上

今後

Performance Optics社とのセールスシナジー
による米州での成長加速を目指す



足元

既存店が堅調に推移。
期末店舗数 278店（新規2/閉店0）

今後

下期以降、新規出店の加速を図っていく

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

22

【メガネレンズ】

米州は二桁の伸び、欧州がフラットであった。

APACは生産キャパシティの問題など内部要因で成長率は数%にとどまった。今後、キャパシティはさらに厳しくなる見込みであり、キャパシティをベトナムに追加する予定。

日本は数%のマイナス。当社の市場シェアは50%ほどであり、価格競争に追従すると、市場全体が再度価格下落する懸念がある。

収益性については強い構造ができあがったので、今後は投資を再開し、売上成長を加速させる。

製品別概況



眼内レンズ

足元

アジアの代理店チャネルにおける在庫の適正化等により減収

今後

代理店チャネルのてこ入れと直接販売の検討。
Mid Labs/Fritz Ruckの買収とPMI



内視鏡

足元

体制強化が奏功し、欧米での販売好調が継続

今後

ハイエンドから新興市場向けの低価格帯製品
まで、新製品を順次発売し売上拡大を図る

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

23

【眼内レンズ】

日本において、総合病院への拡販が一巡するなど、踊り場。
中国の代理店において、在庫が積み上がっており、在庫水準が落ちるまでは出荷を止めている状況。
一方で直販の欧州は20%以上伸びており、好調。

Mid Labs/Fritz Ruckの2社を約192億円で買収する。同社は白内障の治療において、白濁した水晶体を乳化して吸引する機械や、網膜用の病変部を切除するカッターといった製品を持っており、眼内レンズとのシナジー効果が期待できる。

【内視鏡】

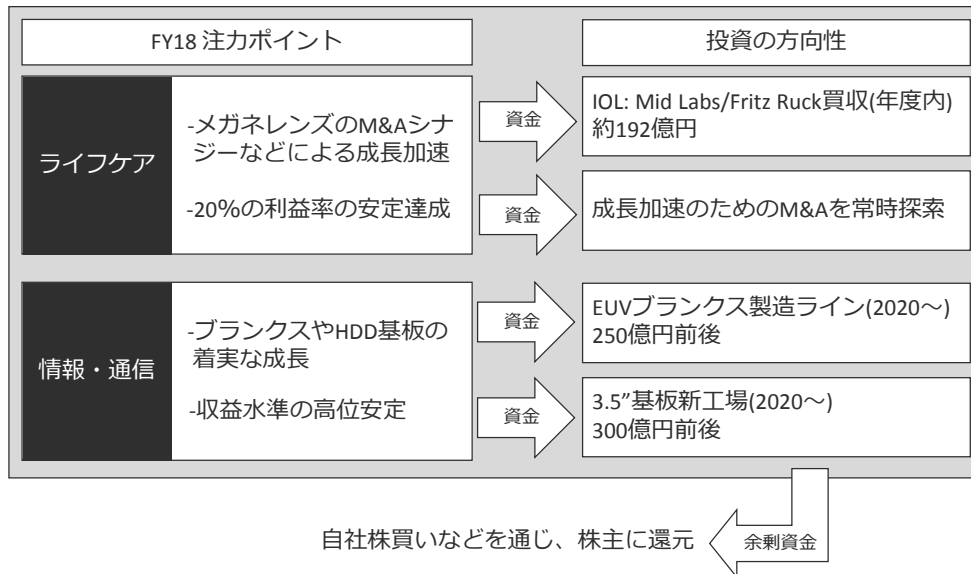
米州は6%、欧州は2%ほど成長、全体は2%と市場並みの成長にとどまった。
新製品を既に発売しているが、売上貢献するのは4Q以降。

【人工骨】

順調に推移。シーズナリティとして4Qが強く、今後も期待。

1. 決算概要
2. 情報通信事業概況
3. ライフケア事業概況
- 4. 総括[代表執行役CEO 鈴木 洋]**
5. 質疑応答

総括



© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

25

【配当】

今回、中間配当を増配（30円⇒45円）とした理由：

- ①中間期と期末の配当をバランスを考慮（cf. FY17 中間30円 期末45円）
- ②投資家との対話の中で、自社株買いを好む投資家がいる一方で、配当を好む投資家も一定数おり、そのバランスを考慮
- ③利益成長に伴い、配当性向が落ちてきていたため

【自社株買い】

これまで同様、フリーキャッシュフローは全て株主に還元する方針。資金需要や株価水準などを総合的に勘案し、自社株買いを実施していく。

1. 決算概要
2. ライフケア事業概況
3. 情報・通信事業概況
4. 総括
- 5. 質疑応答**

質疑応答内容-1

Q

[HDDガラス基板]
3.5"ガラス基板の新規顧客獲得の可能性は？

A

HDD業界は、HAMRやMAMRといった記録密度向上によるデータ容量の増加を図ってきたが、基板の多枚数化以上の記録密度の上昇を達成しない限り意味がなく、現状においては多枚数化の方が実現可能性が高いという環境になりつつある。以上のような状況もあり、全てのHDDメーカーに対し、当社の3.5"ガラス基板製品の訴求力が着実に上がってきている。
来上半期には、顧客拡大の可能性がより明確になってくるであろう。

Q

[半導体 blanks]
当事業における競争環境に変化はあるか？

A

当社は今後の伸びが期待されるEUVを含む先端品においてシェアが高く、今後全体としてのシェアが高まるだろう。

質疑応答内容-2

Q

[HDDガラス基板]

データセンターにおいて、HDDがフラッシュメモリに取って代わられるリスクはあるか？

A

データセンターは、アクセス頻度によりホット（頻度多）、ウォーム、コールド（頻度少）に分けられる。

アクセス頻度の高いホットはフラッシュメモリに置き換わっていくが、コールド（ニアライン）は価格面、容量面で当面はHDDが使われるので、当社への影響について懸念していない。

Q

[全体]

監視カメラ向けレンズにおいて米中貿易摩擦の影響が出ている背景。また、HDDガラス基板事業への影響はあるか？

A

当社の監視カメラ用レンズの最終顧客（中国メーカー）が影響を受けており、当社の売上も減少している。急激な成長が続いた反動からの最終顧客での在庫調整も要因と思われる。また、監視カメラ用HDDは影響を受けているが、当社は同用途向けの製品は取り扱っていないため、影響がない。

質疑応答内容-3

Q

[M&A]

株式市場が調整局面にあり、バリュエーションが下がってきていることから、M&Aの活発化はありうるか？

A

当社がターゲットとしている対象はプライベート・エクイティ傘下のことが多く、株式市場におけるバリュエーションが直接的に影響している状況にはまだない。そのため、引き続き慎重に当社基準に照らし合わせ検討を進めていく。

Q

[全体の利益率]

ライフケア事業と情報・通信事業、それぞれ今後も利益率は上昇余地があるのか？

A

ライフケア事業については、今後は利益率20%を保ったまま、売上成長を加速させるフェーズに移っていく。情報・通信事業についても、高位安定を目指す。

質疑応答内容-4

Q

[HDDガラス基板]

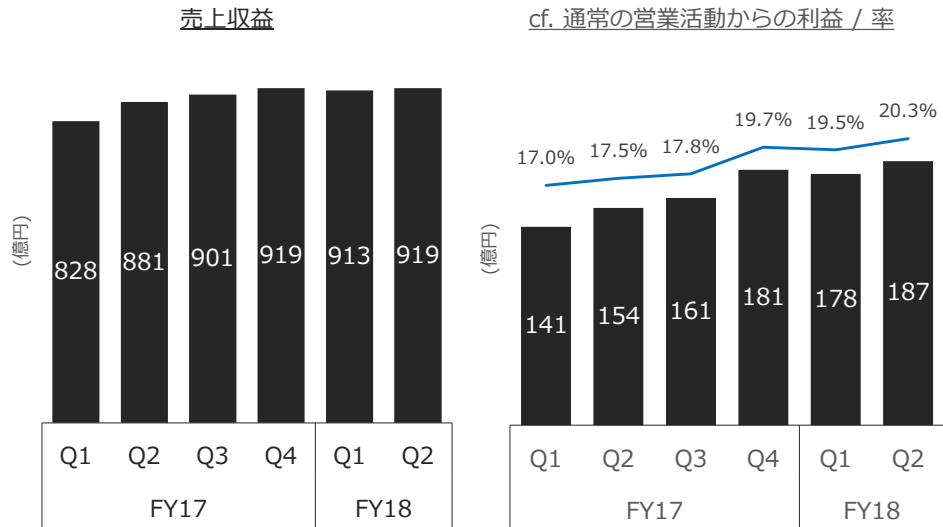
大規模データセンターの投資が減速していると言われていたが、影響は？

A

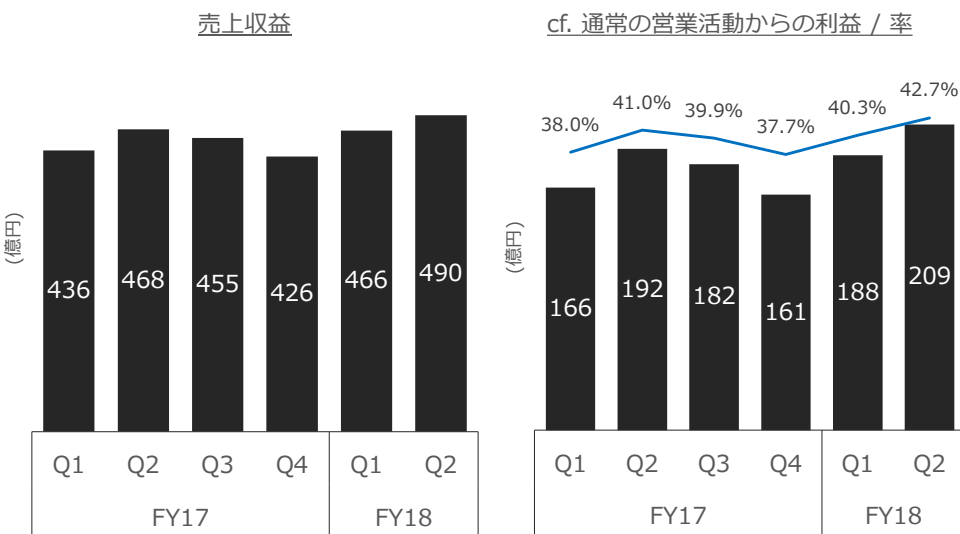
当社が現状ねらいとしているのは、既存のデータセンターの中において現在アルミ基板を使っているHDDをガラス基板によって置き換えていくというシナリオであり、データセンターの新設などが減速したとしても影響はほとんどない。

Appendix

ライフケア事業 QoQ推移



情報・通信事業 QoQ推移



本資料の表記について

- ✓ 当社は国際会計基準（IFRS）を適用しています。
- ✓ 2018年4月～2019年3月の会計期間を2019年3月期もしくはFY18と表記しています。
- ✓ 第1四半期、第2四半期、第3四半期、第4四半期をそれぞれQ1, Q2, Q3, Q4と表記しています。
- ✓ 億円未満の金額は四捨五入しており、そのため合計値が合わない場合があります。
%は実際の金額を基に算出しています。
- ✓ 通常の営業活動からの利益は、税引前利益から金融収益・費用、持分法投資損益、為替差損益及び非経常的に発生する損益等を除いて算出している参考値です。
- ✓ 本資料の財務諸表は明細を割愛しています。詳細な財務情報は決算短信もしくは決算短信補足資料をご覧ください。
<http://www.hoya.co.jp/investor/kessan.html>

免責事項

本資料は、当社の評価を行うための参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承下さい。当資料に掲載されている将来に関する記述の部分は、資料作成時点の判断ですが、その内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。